

太陽気だより

養徳社 検索

ホームページからご覧いただけます

No. 36 2010.3.15

第4号(24年8月号)から

「陽気」は、昭和24年4月の創刊、今年で61年を迎えます。過去の記事から、その歩みの一端を振り返っていきます。

科学 話の泉

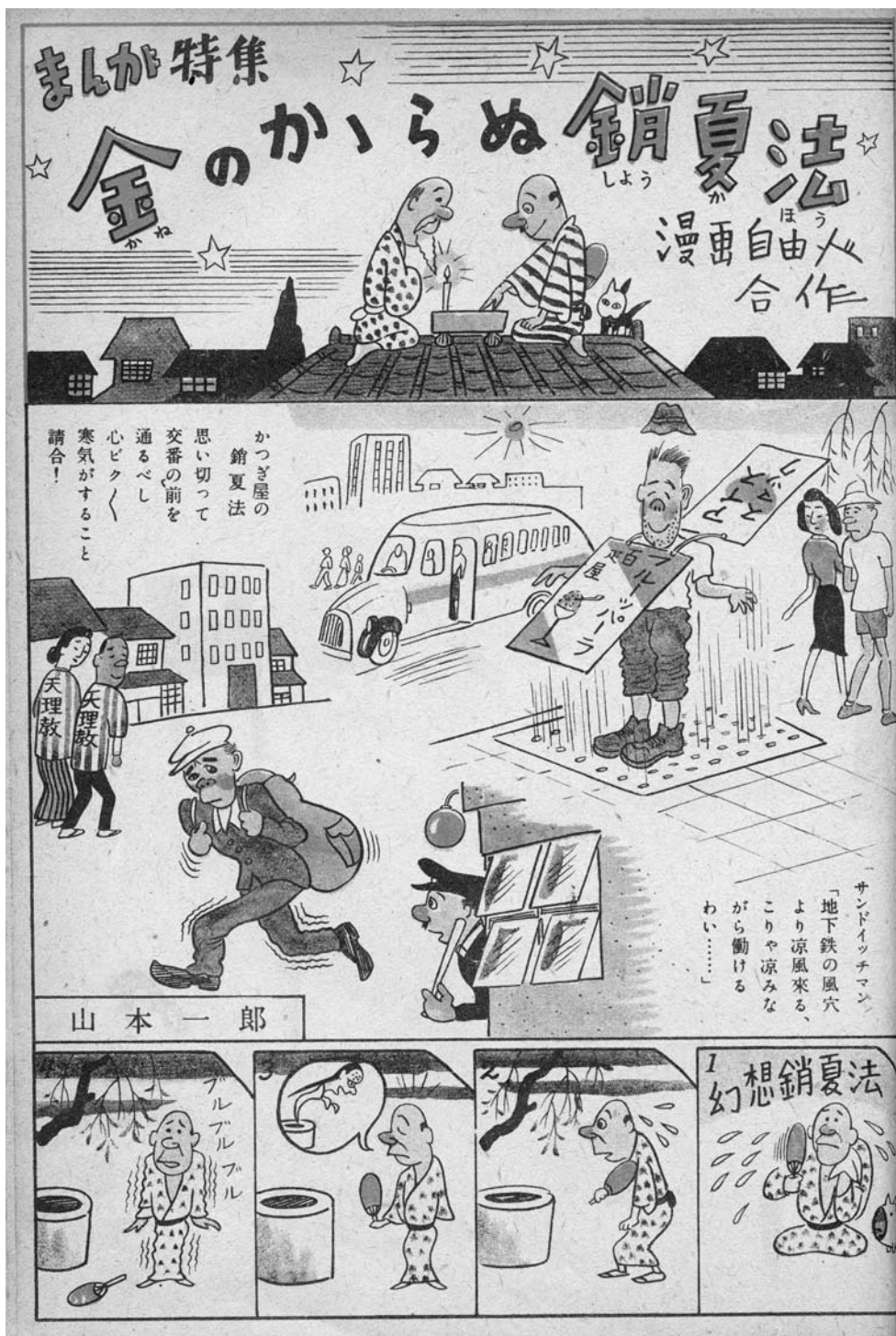
ご存知ですか

☆蜘蛛の一オンス(約28・35グラム)の糸を延ばすと三百五十哩(マイル・一マイル)

約1・6キロ)にまで延びる
そうである。
☆地球から太陽までの距離は
大体九二、八二二、〇〇〇から九二、八九七、〇〇〇哩までの間だと推定されている。

☆一哩の線路の間には二千以上の枕木がある。
☆もし蟻が人間と同じ大きさだったとすると、人間の三十倍の力で物を運んでいることになる。
☆もし蠅が人間と同じ大きさだったとすると、人間の百二十倍の早さで歩いていること

になる。
☆人間の身体には、五千箱のマッチを作れるだけの燐を含んでいる。
☆人間の舌は、十一の違った種類の筋肉で出来ている。
☆人間の頭の中には、七十七の違った種類の筋肉がある。
☆健康な人間は平均一分間に二十回呼吸をする。



8月号だけに、マンガも夏の話です。描かれている図柄から、当時の風俗も偲べられます。「サンドイッチマン」と言えば、鶴田浩二が「ロイド眼鏡に 燕尾服 泣いたら 笑うだろ……」と歌った『街のサンドイッチマン』が流行りました。夏法とは、暑気払いのことです。

信仰例話三題

奇蹟

不思議な御守護、奇蹟を見せて頂くという事は、教祖様時代も今も、何も変りはありません。

奇蹟とは神様が入り込まれるということ。しかし取る次ぐ者が、日々取次ぐ話と行いとが反対では神様の入り込みはありません。人に一夫一婦の理とか、禁酒とか朝起の事を説きますが、説く自分が、他に女をこさえたり、酒呑みであったり、朝寝坊であったりしては、神様は、うそついでしょ、これくらいと仰せられます。入り込んで下さる道理がありません。常に教理と行いとを外して居つては神様のお入り込みがありません。

奇蹟を見せて頂くには、教

理と行い、口と行いが何時もぴったりと一致して居ることです。ただこれだけのことで

よく人は、教祖雛型万分の一ということ言いますが、土佐(卯之助)先生は、そんな万分の一位の了簡ではないけん、われわれは、教祖雛型とまでは行かないが、せめて三分の二、二分の一の覚悟で行かねばならん、と絶えず聞かして下さいました。

(柏原源次郎 講話)

教理以上のもの

書いたもの読んだだけ、耳できいただけではこの道つかない。

もし、それで道がつくようであったら、本こしらえて読んでいたら、それでよいのや。蓄音器の盤に吹きこんで、聞

いてたらそれでよい。布教師も教会も何もいらん。ひながたという理が重いのである。
(梶本宗太郎 講話)

感謝

I 姉は、不治の眼病を奇蹟的に救われて入信した。失明の目が、やつと十尺(約三メートル)ほど、ほんやり見える御守護を頂いたのであった。爾来、姉は、乗物の乗りおりは勿論、道で小石につまづいても、合掌して「有難うございます」と感謝の祈りを捧げた。

人がその訳をたずねると、「親神は常に、不自由な自分と共にあり、手をひいて汽車に乗せ、手をひいて汽車よりおろし、小石につまづかして自分の迂闊な心をお知らせ下さるからである」と答えた。

(聞書) ※いずれの話も『信仰例話集 真実の道』(道友社刊)による。

大好評!

大地を駆ける伝道者たち

北海道に血と汗と涙を流した伝道の記録

初の地域限定おたすけ実録集

天理教北海道教務支庁編
四六判並製 304 頁
定価=1,575 円(税込) 〒200
図書出版 養徳社
天理市川原城町 388
☎(0743)62-4503
http://yotokusha.com/

「陽気」創刊 60 年記念出版

人生二終なし

じんせいにおわりなし

—父 柏木庫治を語る—

- 三人の兄妹によるてい談
- 「陽気」掲載記事
- 柏木庫治小伝

定価=1,260 円(税込) 送料 200 円

「陽気」創刊 60 年記念出版

道の八十年

—松村吉太郎自伝—
天理教の歴史とともに
生き抜いた信仰軌跡

松村吉太郎 著 定価=1,680 円(税込)
(高安大教会初代会長) 送料 200 円

「陽気」創刊 60 年記念出版

お道の人のおとておきの話

お道の人のお美しい心象風景 52 話

朝席・夕席に最適です

定価=1,260 円(税込) 送料 200 円

養徳社 よもやま話

○……「陽気」は五月号より値上げします。年度替わりの時期と重なった事で取引先のお客様が新年度の準備をやりなさいなればならない事態が起きた。当社でも新年度の帳簿を作成するこの時期は大忙し、お客様の立場となつて考えないとならない問題だった。お客様の立場となり、この不況時に値上げした分も納得していただけるよう読者の声を大切にしたい。

○……かなり以前のことだが、新潟の豪雪地帯にある教会に行つたとき、「私は、雪が好きなんです」と言つたところが、それまでにこやかに話しておられた会長さんが、プイと横を向いて「アホな」とつぶやくようにおっしゃつた。なるほど、いつも雪に苦悶されている方々にはほんとに非礼な発言であつたと大いに反省したのだが、そんなことはもう昔の話。今は雪どころか、ちよつと寒くなつただけでもう暖房機の守をしているようになってしまった。

「陽気」定価改定についてお願い
本誌は平成九年以来、定価を据え置いてまいりましたが、営業努力も限界に達し、来る五月号より定価二百円(税込)に改定させていただきます。何卒、事情ご賢察の上、ご支援・ご協力のおほどお願い申し上げます。